

「アジア青年の家」構想について

I 構想の概要

沖縄振興における重点課題である「人材育成」施策の一環として、沖縄の若者と沖縄以外の日本各地の若者そしてASEAN諸国を中心としたアジア各国の若者が、万国津梁の地であり、科学技術・IT技術の進展を目指す沖縄に一同に会し、一定期間の共同生活による共通体験等を経ることにより、

- ・ 沖縄の若者をはじめとした日本の若者に、イノベティブマインド、多様性を受け入れる開かれたところの醸成を図る
- ・ 日本やアジアの若者に、沖縄の魅力を再発見してもらう

こととなり、イノベティブマインドの醸成をはじめとした青少年の人材育成を第一の目的としつつ、沖縄の科学技術振興、国際交流拠点としての地位確保が図られるとともに、沖縄の振興にも資する事業構想。

II 内容・対象・規模等

- ・ 合宿・ホームステイ、体験学習、科学技術・IT体験等を沖縄各地で実施。更に具体的な内容等については、「アジア青年の家構想推進に係る有識者会議」において議論
- ・ 中学生～大学院生計150人程度(アジア各国、沖縄以外の日本、沖縄から各50人程度)
- ・ 2008年度の夏休み期間に第1回を実施(約1か月間程度を予定)

III その他

- ・ 本構想は、安倍総理の指示を受けて検討を進め、去る5月15日(沖縄の本土復帰35周年記念日)に高市沖縄担当大臣から発表したもの
- ・ 本年6月1日に閣議決定された「長期戦略指針「イノベーション25」」においても、本構想について言及されている

(参考)長期戦略指針「イノベーション25」(抜粋)(平成19年6月1日閣議決定)

第5章 「イノベーション立国」に向けた政策ロードマップ

1. 社会システムの改革戦略

(1) 早急に取り組むべき課題

2) 次世代投資の充実と強化

③ 多様性を受け入れ、出る杭となる「人」づくり

- ・ 若者の海外交流の充実

異なる文化、生活、習慣をもつ年代の若者との交流活動は、異文化を直接体験し、国際理解を深め、国際性を養うことから、多様性を受け入れ、出る杭となる「人」づくりにとって重要であり、若いときからの国際交流を経験する観点から、以下の取組を行う。

(略)

— 中学生、高校生のアジアの仲間との交流を促進するためのプログラムの早期検討(「アジア青年の家」構想等)。